

# 小笠原春彦名誉教授記念号の刊行にあたって

学長 和田 健 夫

小笠原春彦先生は、1974年3月に東京大学教育学部教育心理学科をご卒業後、同年4月に日本国有鉄道に入社、1976年4月からは同鉄道労働科学研究所（国鉄が分割民営化された1987年からは財団法人鉄道総合技術研究所）主任研究員になられ、その間1981年9月から1982年9月まで米国シカゴ大学大学院行動科学研究科に留学されました。1995年6月に小樽商科大学商学部社会情報学科教授に就任、2015年3月に定年退職後、さらに2年間の特任教授を含めて約22年、本学の教育研究に多大の貢献をされました。

先生の専攻分野は統計科学で、とくに多変量解析の領域で多大の研究業績を残されています。発表された論文は、毎年複数本に及び、その数は膨大で、それらを網羅的に紹介することは不可能ですが、たとえば、Bias correction of the Akaike information criterion in factor analysis. *Journal of Multivariate Analysis* 149, 2016, Optimal information criteria minimizing their asymptotic mean square errors. *Sankhyā, B*, 78, 2016, Expected predictive least squares for model selection in covariance structures. *Journal of Multivariate Analysis*, 155, 2017, Accurate distributions of Mallows'  $C_p$  and its unbiased modifications with applications to shrinkage estimation. *Journal of Statistical Planning and Inference*, 184, 2017, Extensions of Pearson's inequality between skewness and kurtosis to multivariate cases. *Statistics and Probability Letters*, 130, 2017 などがあります。1992年には、「経時性等の補助情報を考慮した共分散構造モデルに関する研究」で東京工業大学から博士（学術）の学位を、2014年には“Applications of asymptotic methods in statistics to item response theory”

の研究で東北大学から博士（教育情報学）の学位をそれぞれ取得されました。先生はまた、その研究により、日本行動計量学会優秀賞（1991年）、社団法人日本心理学会研究奨励賞（2000年）、日本行動計量学会林知己夫賞・功績賞（2015年）、日本計算機統計学会優秀賞（2017年）を受賞されています。本学在任中は、1999年から8度にわたり科学研究助成金の採択を受けておられます。

教育の面では、学部では、「統計科学」、「応用統計」、「研究指導」を、大学院では、「社会測定Ⅰ、Ⅱ」（現代商学専攻前期課程）を担当されました。学部の研究指導（ゼミナール）のテーマは、「社会科学・行動科学における統計的手法とその応用」でした。学生は、統計的手法を習得した上で、自分の身の回りにある様々なトピックス（地域、国際、教育、福祉、生きがい）にそれを応用し、自らデータを取得し、あるいは既存のデータを再分析して卒業論文にまとめることが求められました。22年間で56名（卒業論文提出者）の学生が小笠原ゼミで育っていきました。

2017年1月30日、先生の最終講義が行われました。テーマは「統計科学研究の原点」でした。先生は、ここで、統計学的手法について言及しつつ、ご自身の研究の原点が、大学時代に学んだ教育心理学や国鉄研究所の勤務のなかで培ったデータ解析の様々な経験にあることを語られました。それは、長い研究に裏打ちされた最後のメッセージにふさわしいものでした。

私にとって、在任中の小笠原春彦先生の印象は、飽くなき研究心をいつまでも持ち続け追求する研究者でありました。退職後も、本学で研究員として研究を続けておられます。長きにわたる本学へのご貢献に改めて感謝申し上げますとともに、一層のご活躍を祈念しております。